

こたえ 台風のしくみ

きそ基礎②

台風のしくみ

夏から秋にかけて、日本には、たびたび台風がやってきます。台風は、どこで生まれるのでしょうか。

台風が生まれるのは、日本のはるか南の、赤道に近いあたたかい海の上です。あたたかい海では、海の水がさかんに蒸発して、たくさんすいじょうきの水蒸気が上へのぼっていきまます。この空気が冷やされて、大きな雲になります。こうしてできたうずまきが、どんどん発達したものが、台風です。

台風は、大きなものでは、直径が千キロメートルをこえることもあります。強い風と大雨をもたらし、大きな災害を引き起こすことがあります。

台風を中心のまわりでは、風が、時計のほりと反対の向きに、うずをまくようにふきこんでいます。けれども、中心の部分だけは、風が弱く、雲がほとんどありません。ここを、台風の目といいます。

台風が陸に上がると、海からの水蒸気すいじょうきが少なくなるので、だんだん勢いが弱まってきます。台風が近づいたら、気象情報に注意し、早めにそなえることが大切です。

1 台風が生まれるのは、どんな海の上ですか。

赤道に近い

あたたかい海

2 台風のまわりの風は、どの向きにふきこんでいますか。

ア 時計のほりと同じ向き

イ 時計のほりと反対の向き

ウ まっすぐ北向き

3 台風を中心の、風が弱く雲がほとんどない部分を何といいますか。

台風の目

4 台風が陸に上がると、どうなりますか。

ア 勢いが強くなる。

イ だんだん勢いが弱まる。

ウ 向きが反対になる。

おうちの方へ

- 気象衛星の雲の画像で、台風のうずと「目」を探してみましょう。

参考資料：気象庁 キッズ「なぜ台風が発生するの？」／日本気象協会 tenki.jp 「台風のしくみ」